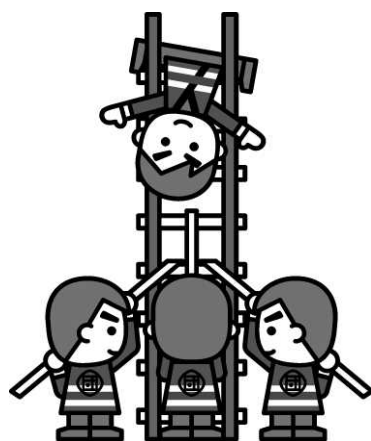


消防団と古式消防保存会



消 防 団

1 厚木市消防団のあゆみ

江戸時代中期から末期にかけての消防は、火災現場付近の人々が駆けつけて消火に当たる「駄付火消」であった。しかし、組織化されていないため火事が発生する度に、いざこざが絶えなかった。

明治初期、厚木町において住民が中心となり、一定の人員と火消道具を備え消火技術をもった「町火消」が誕生し、各町内ごとに一組の「消防組」が設けられ、現在の消防団へと発展した。

明治初期	厚木町に「町火消」が誕生し、各町内ごとに一組の「消防組」が設けられた周囲の村々は「駄付火消」であったが徐々に「消防組」となる																												
明治27. 2. 9	勅令（第15号）により消防組規則設定																												
各町村の公設消防組設置年月日																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>町 村 名</th><th>設 置 年 月 日</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>厚 木 町 消 防 組</td><td>明治28年1月</td></tr> <tr><td>荻 野 村 消 防 組</td><td>明治28年1月</td></tr> <tr><td>妻 田 村 消 防 組</td><td>明治37年</td></tr> <tr><td>小 鮎 村 消 防 組</td><td>大正3年</td></tr> <tr><td>南 毛 利 村 消 防 組</td><td>大正3年</td></tr> <tr><td>及 川 村 消 防 組</td><td>大正10年</td></tr> <tr><td>相 川 村 消 防 組</td><td>大正11年</td></tr> <tr><td>三 田 村 消 防 組</td><td>大正14年</td></tr> <tr><td>棚 沢 村 消 防 組</td><td>大正14年</td></tr> <tr><td>下 川 入 村 消 防 組</td><td>大正14年</td></tr> <tr><td>林 村 消 防 組</td><td>大正14年</td></tr> <tr><td>依 知 村 消 防 組</td><td>大正2年</td></tr> <tr><td>玉 川 村 消 防 組</td><td>大正3年</td></tr> </tbody> </table>		町 村 名	設 置 年 月 日	厚 木 町 消 防 組	明治28年1月	荻 野 村 消 防 組	明治28年1月	妻 田 村 消 防 組	明治37年	小 鮎 村 消 防 組	大正3年	南 毛 利 村 消 防 組	大正3年	及 川 村 消 防 組	大正10年	相 川 村 消 防 組	大正11年	三 田 村 消 防 組	大正14年	棚 沢 村 消 防 組	大正14年	下 川 入 村 消 防 組	大正14年	林 村 消 防 組	大正14年	依 知 村 消 防 組	大正2年	玉 川 村 消 防 組	大正3年
町 村 名	設 置 年 月 日																												
厚 木 町 消 防 組	明治28年1月																												
荻 野 村 消 防 組	明治28年1月																												
妻 田 村 消 防 組	明治37年																												
小 鮎 村 消 防 組	大正3年																												
南 毛 利 村 消 防 組	大正3年																												
及 川 村 消 防 組	大正10年																												
相 川 村 消 防 組	大正11年																												
三 田 村 消 防 組	大正14年																												
棚 沢 村 消 防 組	大正14年																												
下 川 入 村 消 防 組	大正14年																												
林 村 消 防 組	大正14年																												
依 知 村 消 防 組	大正2年																												
玉 川 村 消 防 組	大正3年																												
明治28. 1	厚木町消防組で、米国製の吸管付手押ポンプ購入																												
大正11.	厚木町消防組第4部（天王町）で、横浜市から中古の蒸気ポンプを購入																												
大正12. 4	厚木町消防組第2部（本町）で、手引ガソリンポンプ（30馬力）購入																												
昭和 3.	昭和3年11月、昭和天皇即位の御大典の挙行に当たり、御大典記念事業として、消防施設の整備が行われた																												
	厚木町消防組第4部（天王町）消防ポンプ自動車（30馬力）1台購入																												
	第7部（旭町）手引ガソリンポンプ（40馬力）1台購入																												
	第2部（本町）手引ガソリンポンプ（40馬力）1台購入																												
	厚木神社前に防火井戸を設置																												
	荻野村消防組で村内主要箇所に貯水池12基設置																												
	玉川村消防組で火の見櫓を3基設置																												
昭和 8. 12	厚木町消防組では、消防ホースの接手をねじ式から町野式にした																												

昭和14. 1. 24	勅令（第20号）により「警防団令」が発令された。この令により各町村の警防団は4月1日から発足することになり、明治27年勅令に基づく「消防組規制」によって誕生し、さらに発展してきた各町村の消防組も「消防組規制」の廃止とともに「防空、水火災消防その他の警防に従事」する警防団に改組され、戦時体制に協力することになる
昭和22. 4. 30	勅令（第185号）「消防団令」が制定公布され、従来の警防団は廃止
昭和22. 12. 23	法律（第226号）「消防組織法」が施行され、従来、警察に属していた消防は完全に分離独立し、消防は市町村の責任に移り、市町村長がこれを管理することになる
昭和30. 2. 1	町村合併促進法に基づき、厚木町、睦合村、小鮎村、玉川村、南毛利村を合併して厚木市が発足、同時に厚木市消防団を設置 初代消防団長 木下信勝 氏就任 (1) 組織 団長以下613名（12個分団） (2) 設備 消防ポンプ自動車 4台 小型動力ポンプ 21台 手引動力ポンプ 6台
昭和30. 7. 8	依知村、相川村を合併、これらの消防団を厚木市消防団に統合 (1) 組織 団長以下865名（16個分団） (2) 設備 消防ポンプ自動車 4台 小型動力ポンプ 34台 手引動力ポンプ 8台
昭和31. 8. 15	2代目消防団長 新戸裕治 氏就任
昭和31. 9. 30	荻野村を合併、荻野村消防団を厚木市消防団に統合 (1) 組織 団長以下975名（18個分団） (2) 設備 消防ポンプ自動車 4台 小型動力ポンプ 39台 手引動力ポンプ 8台
昭和32. 6. 11	消防団員等公務災害補償責任共済に加入
昭和33. 2. 1	3代目消防団長 山本総三郎 氏就任
昭和33. 4. 1	4代目消防団長 向島孝秋 氏就任 組織改革により団長以下1,010名とする
昭和35. 4. 1	常備隊発足計画により消防団の縮小を実施 (1) 組織 団長以下618名（18個分団）
昭和37. 1. 7	消防団と消防常備隊の出初め式を厚木市総合グラウンドで挙行
昭和39. 4. 1	消防団組織改革により団長以下555名（8個分団） 中型消防自動車2台、オート三輪車搭載可搬ポンプ3台を新たに配置し、少数精鋭とした
昭和39. 6. 30	消防団員退職報償金支給責任共済に加入
昭和40. 10. 17	第1回消防団員家族慰安会を実施
昭和46. 6. 1	消防団の組織改革を実施 (1) 組織 8個分団 52個部 団長以下564名
昭和49. 10. 12	第1回消防団分団別対抗ソフトボール大会を実施

昭和51. 4. 1	5代目消防団長 吉村博 氏就任
昭和53. 4. 29	元副団長 平井實 氏 昭和53年春の消防関係生存者叙勲 勲六等瑞宝章を賜る
昭和55. 4. 29	元分団長 片倉三衛 氏 昭和55年春の消防関係生存者叙勲 勲六等瑞宝章を賜る
昭和55. 7. 30	第1回消防団員健康診断を実施
昭和55. 8. 1	消防団出動区分の見直しを実施
昭和56. 4. 1	消防団員福祉共済に加入
昭和56. 4. 29	元分団長 井上泰一 氏 昭和56年春の消防関係生存者叙勲 勲六等瑞宝章を賜る
昭和57. 4. 1	6代目消防団長 小泉阿栗 氏就任
昭和57. 11. 3	元団長 吉村博 氏 昭和57年秋の消防関係生存者叙勲 勲六等単光旭日章を賜る
昭和59. 4. 1	7代目消防団長 小瀬村初男 氏就任
昭和59. 10. 24	消防団再編成小委員会を設置し、今後の消防団組織を検討
昭和60. 8. 11	第1回厚木市消防団消防操法大会を実施
昭和61. 9. 1	第7回6都県市合同防災訓練開催
昭和62. 4. 29	元副団長 飛川正春 氏 昭和62年春の消防関係生存者叙勲 勲六等単光旭日章を賜る
昭和63. 4. 1	消防団再編成小委員会の答申に基づき消防団組織を改正し、本部付団員を解消し各分団へ再配置した
	8代目消防団長 和田美正 氏就任
昭和63. 11. 3	元分団長 大塚喜代忠 氏 昭和63年秋の消防関係生存者叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る
平成元. 11. 3	元分団長 浅岡昭二 氏 平成元年秋の消防関係生存者叙勲 勲六等瑞宝章を賜る
平成2. 10. 14	第1回厚木市消防団員家族運動会を実施
平成3. 4. 29	元分団長 堀池勲 氏 平成3年春の消防関係生存者叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る
平成3. 8. 13	9代目消防団長 関野靖穂 氏就任
平成3. 8. 26	厚木市消防団訪中（揚州市）
平成4. 9. 27	厚木市消防団訪中（揚州市）
平成5. 4. 29	元団長 小泉阿栗 氏 平成5年春の消防関係生存者叙勲 勲六等単光旭日章を賜る
平成6. 4. 1	10代目消防団長 萩原隆行 氏就任
平成6. 4. 29	元分団長 成瀬佳三 氏 平成6年春の消防関係生存者叙勲 勲六等瑞宝章を賜る
平成7. 4. 29	元分団長 坂本榮一 氏 平成7年春の消防関係生存者叙勲 勲六等瑞宝章を賜る
平成9. 4. 29	元団長 関野靖穂 氏 平成9年春の消防関係生存者叙勲 勲六等単光旭日章を賜る
平成11. 4. 29	元分団長 青木鐵雄 氏 平成11年春の消防関係生存者叙勲 勲六等瑞宝章を賜る

平成14. 4. 1	11代目消防団長 森久保純生 氏就任
平成15. 1. 22	携帯電話の電子メール活用による災害情報配信運用開始
平成15. 3	服制準則に準拠した冬作業服の更新
平成15. 2. 7	日本消防協会特別表彰「まとい」受章
平成15. 12	団活動環境の改善として防寒衣を新規導入
平成16. 12. 16	団活動環境の改善として防火帽を更新
平成17. 4. 1	女性消防団員任用のため厚木市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例を施行し、定員を579人に改定する
平成17. 7. 1	本市初の女性消防団員任用（20名）
平成17. 11. 20	市制50周年記念 第1回あつぎ消防フェスティバルを開催
平成18. 2. 24	消防団地域活動表彰受賞
平成18. 4. 1	12代目消防団長 森屋昭一 氏就任
平成18. 4. 29	元副分団長 北條正博 氏 平成18年春の消防関係生存者叙勲 瑞宝単光章を賜る
平成18. 11. 19	第2回あつぎ消防フェスティバルを開催
平成19. 11. 18	第3回あつぎ消防フェスティバルを開催
平成20. 4. 1	下川入第1・2・3自治会が睦合北地区自治会連絡協議会から依知北地区自治会連絡協議会へ所属が変更となったことに合わせて、厚木市消防団第3分団第6部を第2分団第10部に変更
平成20. 11. 16	第4回あつぎ消防フェスティバルを開催
平成21. 11. 15	第5回あつぎ消防フェスティバルを開催
平成22. 1. 18	元副分団長 井上一男 氏 死亡叙勲 瑞宝単光章を賜る
平成22. 3. 1	総務省消防庁から消防団救助資機材搭載型車両1台を無償で借り受ける
平成22. 4. 1	13代目消防団長 堀池春夫 氏就任
平成22. 11. 3	元団長 萩原隆行 氏 秋の叙勲 瑞宝単光章を賜る
平成22. 11. 7	あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成23. 4. 1	厚木市消防団協力事業所表示制度を制定
平成23. 11. 6	第2回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成24. 11. 9	厚木市消防団協力事業所表示証交付式を挙行
平成24. 11. 11	第3回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成25. 4. 29	元副分団長 小泉勝敏 氏 春の叙勲 瑞宝単光章を賜る
平成25. 11. 10	第4回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成26. 2. 28	公益財団法人日本消防協会から表彰旗を受章
平成26. 4. 1	14代目消防団長 井上衛 氏就任
平成26. 11. 9	第5回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成27. 3. 15	総務省消防庁から消防団救助資機材搭載型車両1台を無償で借り受ける
平成27. 3. 30	団活動環境の改善として防火衣一式を更新
平成27. 11. 8	第6回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成28. 4. 29	元団長 森久保純生 氏 春の叙勲 瑞宝単光章を賜る
平成28. 10. 28	元副団長 藤井道宏 氏 死亡叙勲 瑞宝単光章を賜る
平成28. 11. 13	第7回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成29. 4. 1	厚木市学生消防団活動認証制度を制定
平成29. 9. 30	女性消防団が第23回全国女性消防操法大会に出場

平成29. 11. 3	元分団長 尾島敏晴 氏 秋の叙勲 瑞宝単光章を賜る
平成29. 11. 12	第8回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成29. 12. 21	公益財団法人日本消防協会から消防防災活動車1台交付される
平成30. 4. 1	15代目消防団長 望月玉三朗 氏就任
平成30. 4. 19	厚木市学生消防団活動認証制度による本市学生消防団員初認証
平成30. 11. 11	第9回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
平成30. 12	団活動環境の改善として防寒着を更新
令和元. 5. 21	元団長 森屋昭一 氏 春の叙勲 瑞宝単光章を賜る
令和元. 11. 3	元団長 堀池春夫 氏 秋の叙勲 瑞宝単光章を賜る
令和元. 11. 10	第10回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
令和2. 11. 3	元団長 井上衛 氏 秋の叙勲 瑞宝単光章を賜る
令和2. 12	団活動環境の改善として保安帽を更新
令和3. 3. 30	公益財団法人神奈川県消防協会から表彰旗を受章
令和3. 11	団活動環境の改善として活動服を更新
令和4. 4. 1	16代目消防団長 川田啓一郎 氏就任
令和4. 11. 3	元団長 望月玉三朗 氏 秋の叙勲 瑞宝単光章を賜る
令和4. 11. 13	第13回あつぎ消防団ふれあい広場を開催
令和5. 4. 29	元分団長 原田正巳 氏 春の叙勲 瑞宝単光章を賜る
令和5. 11. 12	第14回あつぎ消防団ふれあい広場を開催



2 消防団事務

(1) 公務災害補償

令和5年度中の補償状況 消防団員 4人

(2) 退職消防団員に対する報償

令和5年度中の退職消防団員は47人であり、5年未満勤務の退団者13人には、
礼状を贈り、その労をねぎらいました。

(3) 表彰

ア	消防庁長官表彰	
	消防庁長官表彰（永年勤続功労章）	2 人
	竿頭綬	1 機関
イ	神奈川県知事	
	神奈川県知事表彰（永年勤続優良消防団員20年）	1 人
ウ	厚木市消防団長	
	功績表彰	7 人
	功労表彰	12 人
	分団表彰	第3分団
	部 表 彰	8 個部
エ	日本消防協会長	
	精 績 章	1 人
オ	神奈川県消防協会長	
	功 績 章	6 人
	勤 続 章（20年）	1 人
	精 勤 章（20年）	1 人
カ	厚木市表彰条例に基づく表彰	
	一般表彰	3 人

(4) 消防団員教養訓練等

消防団幹部研修	(6月)
消防団副団長研修	(7月)
消防団員指導員研修（現場指揮課程）	(10月)
消防団長・副団長研修	(10月)
消防団員指導者講習	(11月)
消防団員幹部候補研修	(12月)
消防団幹部地震対策特別講習	(12月)
団員専科教育「機関科」	(1月)
消防団分団長研修	(2月)
女性消防団員及び婦人消防隊員等合同研修	(2月)

3 福 利 厚 生

消防団員健康診断

過酷な消防業務に携わる団員の日常における健康状態を把握するため、自営業者、健康診断を実施していない事業所等に勤務されている団員を対象とした健康診断（診察、身体計測、尿検査、血液検査、心電図、胸部レントゲン）を令和 5 年 8 月に実施した。

受 診 者 54 人

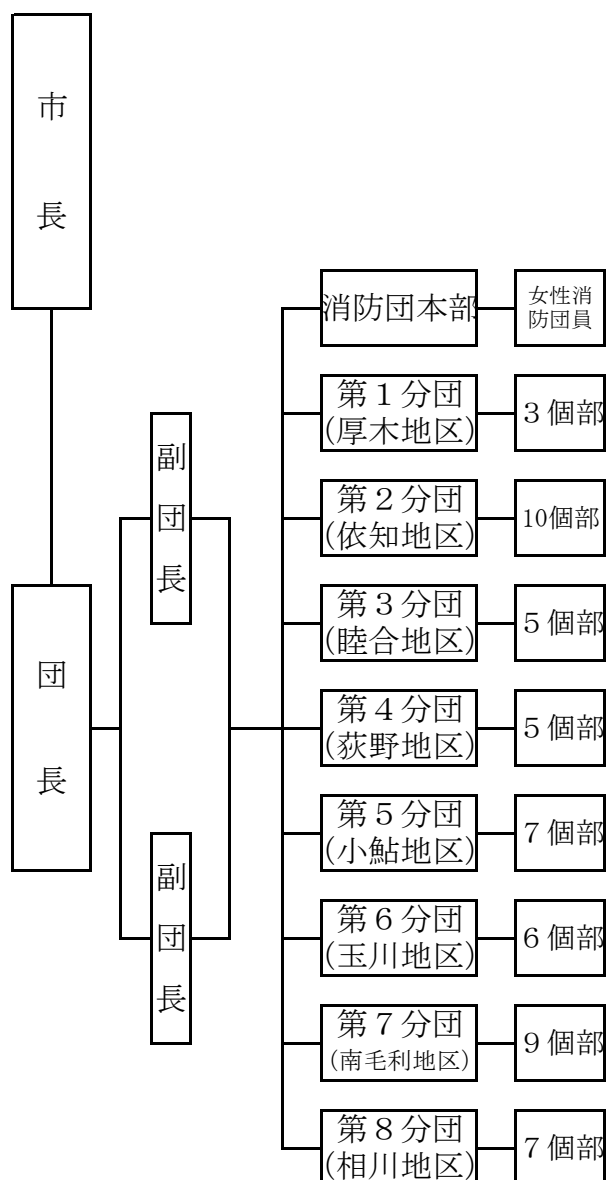
4 消 防 操 法

	第 19 回厚木市消防団消防操法大会
実 施 日	令和 5 年 7 月 23 日（日）
実施場所	厚木市消防訓練場（北消防署睦合分署）
最優秀賞	第 2 分団

5 消防団組織と現勢

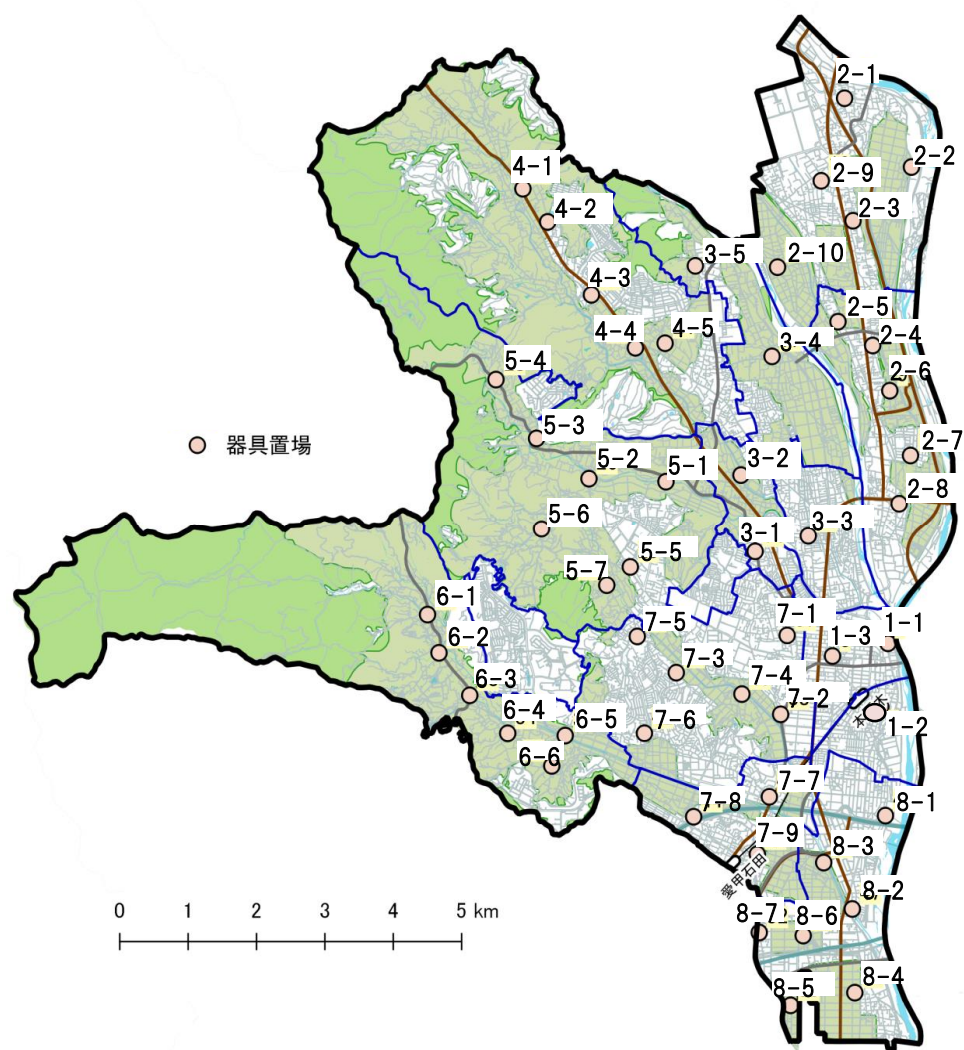
消 防 団 員 定員579名、実員499名
 団 ・ 分 団 ・ 部 数 1 団、8 個分団、52個部
 小型動力ポンプ付積載車 52 台
 そ の 他 の 車 両 1 台

(令和6年4月1日現在)



階 級 と 実 員								車両台数		
団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	副 部 長	団 員	計	積載 小型動力ポンプ付車	その他の車両	
1	2	8	8	52	52	376	499	52	1	
1	2	-	-	-	-	7	10	-	1	
-	-	1	1	3	3	31	39	3	-	
-	-	1	1	10	10	67	89	10	-	
-	-	1	1	5	5	31	43	5	-	
-	-	1	1	5	5	38	50	5	-	
-	-	1	1	7	7	51	67	7	-	
-	-	1	1	6	6	43	57	6	-	
-	-	1	1	9	9	59	79	9	-	
-	-	1	1	7	7	49	65	7	-	

6 消防団施設配置図



7 産業別消防団員調

(令和6年4月1日現在)

区分 総数等	農 業	林 業・ 狩猟 業	水 産 養 殖 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	飲食店・小売業・卸売業	金 融 ・ 保 険 業	不 動 産 業	運 輸 ・ 通 信 業	電 気・ ガ ス・ 水 道 業	サ ー ビ ス 業	公 務	そ の 他
499	21	1	-	-	69	88	38	52	10	43	15	75	52	35
比率 (%)	4.2	0.2	-	-	13.8	17.6	7.6	10.4	2.0	8.6	3.0	15.0	10.4	7.0

8 消防団員退職状況

区分 年度別	計	在 職 年 数						
		5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
H28	7	5	1	-	-	-	-	1
H29	71	7	10	34	6	8	3	3
H30	18	9	5	2	2	-	-	-
R1	91	17	15	36	10	9	1	3
R2	13	9	-	2	2	-	-	-
R3	55	10	9	12	9	12	2	1
R4	18	9	6	2	1	-	-	-
R5	47	13	11	9	4	8	1	1

9 退職報償金年度別及び階級別支払状況

(単位：円)

年度別 区 分		H30	R1	R2	R3	R4	R5
団 長	人員	－	－	－	1	－	－
	金額	－	－	－	979,000	－	－
副 団 長	人員	－	1	－	－	－	－
	金額	－	909,000	－	－	－	－
分 団 長	人員	－	3	－	1	－	1
	金額	－	1,875,000	－	659,000	－	849,000
副分団長	人員	－	－	－	－	1	－
	金額	－	－	－	－	388,000	－
部 長	人員	－	12	－	5	－	5
	金額	－	3,824,000	－	1,772,000	－	1,566,000
副 部 長	人員	－	4	－	2	1	4
	金額	－	1,053,000	－	566,000	283,000	1,129,000
団 員	人員	9	55	4	36	7	24
	金額	1,780,000	16,062,000	1,239,000	11,755,000	1,468,000	7,368,000
合 計	人員	9	75	4	45	9	34
	金額	1,780,000	23,723,000	1,239,000	15,731,000	2,139,000	10,912,000

※退職報償金は、5年以上在職し、消防団活動を続けて退職した場合に、その労苦に報いるため、支給することになっています。

10 階級別年齢調

(令和6年4月1日現在)

階 級 年 齢	合 計	比 率 (%)	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	副 部 長	団 員
合 計	499	100.0	1	2	8	8	52	52	376
20歳未満	3	0.6	－	－	－	－	－	－	3
20歳以上25歳未満	13	2.6	－	－	－	－	－	－	13
25歳以上30歳未満	17	3.4	－	－	－	－	1	－	16
30歳以上35歳未満	47	9.4	－	－	－	－	2	1	44
35歳以上40歳未満	70	14.0	－	－	－	－	5	10	55
40歳以上45歳未満	90	18.0	－	－	1	－	12	12	65
45歳以上50歳未満	110	22.0	－	－	2	1	15	16	76
50歳以上55歳未満	93	18.6	－	－	2	6	9	9	67
55歳以上	56	11.2	1	2	3	1	8	4	37
平均年齢	44.0	－	64.0	56.5	51.4	52.3	46.3	45.4	43.0

11 階級別勤務年数調

(令和6年4月1日現在)

階級 年数	合 計	比 率 (%)	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	副 部 長	団 員
合 計	499	100.0	1	2	8	8	63	41	376
5 年 未 満	141	28.3	-	-	-	-	5	-	136
5 年 以 上 10 年 未 満	110	22.0	-	-	-	-	18	12	80
10 年 以 上 15 年 未 満	132	26.5	-	-	-	2	28	19	83
15 年 以 上 20 年 未 満	56	11.2	-	-	2	1	5	5	43
20 年 以 上 25 年 未 満	40	8.0	-	-	2	4	5	4	25
25 年 以 上 30 年 未 満	15	3.0	1	1	2	1	1	1	8
30 年 以 上	5	1.0	-	1	2	-	1	-	1
平 均	10.0	-	26.0	28.5	24.8	20.0	12.7	11.0	8.9

12 消防団員年度別公務災害発生状況

年 度 別	区 分	負 傷 時 の 状 況									治 療 期 間		
		総 数	火 災	水 災	訓 練	特 別 警 戒	点 検 整 備	警 防 調 査	救 急	そ の 他	1 週間 未 満	1 ヶ月 未 満	1 ヶ月 以 上
H30	死 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	負 傷 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R1	死 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	負 傷 者	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
R2	死 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	負 傷 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R3	死 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	負 傷 者	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
R4	死 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	負 傷 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R5	死 者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	負 傷 者	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	3	1

13 消防団員年額報酬

(令和6年4月1日現在)

(単位：円)

階級 報酬	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	副部長	団員
年額	115,000	100,500	80,500	54,500	49,500	40,500	39,500

14 消防団員出動報酬

(令和6年4月1日現在)

(単位：円)

種別	災害	警戒	訓練
出動1日につき	8,000	3,500	3,500

15 消防団出動状況

(令和5年度)

出動別 区分		合計	火災	風水害	訓練・演習	特別警戒等	その他	管外応援
計	件数	57	34	1	8	6	8	-
	人員	5,513	886	31	1,167	2,682	747	-
本団	人員	132	93	-	10	10	19	-
1分団	人員	458	69	-	126	205	58	-
2分団	人員	1,043	232	-	203	478	130	-
3分団	人員	722	255	19	119	255	74	-
4分団	人員	593	122	12	143	252	64	-
5分団	人員	733	54	-	139	440	100	-
6分団	人員	529	4	-	145	290	90	-
7分団	人員	705	49	-	144	401	111	-
8分団	人員	598	8	-	138	351	101	-

16 消防団施設一覧表

(令和6年4月1日現在)

器 具 置 場								ホ ー ス 乾 燥 塔						
分団	部	所 在 地	延(占有) 面積 (㎡)	器具置場 面積 (㎡)	待機室 面積 (㎡)	設置年月	構 造	所 在 地	構 造	脚数	高さ (m)	設置 年月	サイレン	防災無線
1	1	東町8-10	83.19	29.25	53.94	昭和58年3月	鉄骨造2階 カラー石綿スレート葺	東町8-10	鉄 骨	1	13	昭和58年3月	有	無
	2	旭町2-4-18	93.94	46.20	47.74	平成29年3月	鉄筋コンクリート造 複合施設	旭町2-4-18	鉄 骨	1	12	平成29年3月	有	無
	3	水引1-1-3	78.00	39.00	39.00	平成17年2月	鉄骨造2階 カラー鉄板葺	水引1-1-3	鋼 管	1	12	平成17年2月	有	無
2	1	上依知290-2	89.84	44.92	44.92	令和5年2月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	上依知290-2	鉄 骨	1	12	令和5年2月	有	無
	2	猿ヶ島199-2	47.78	28.13	19.65	昭和60年2月	木造平屋 カラー鉄板葺	—	—	—	—	—	有	無
	3	山際982-2	49.89	27.41	22.48	昭和60年11月	鉄骨造2階 複合施設	山際982-2	コンクリート	1	12	昭和60年11月	有	無
	4	関口31	76.23	36.12	40.11	平成16年3月	鉄骨造2階 複合施設	関口31	コンクリート	1	12	平成16年3月	有	無
	5	関口305-4	44.30	25.96	18.34	昭和61年3月	木造平屋 カラー鉄板葺	関口305-4	コンクリート	1	12	昭和61年8月	有	有
	6	中依知661-6	57.96	28.98	28.98	平成2年3月	木造2階 カラー石綿スレート葺	中依知661-6	コンクリート	1	12	平成2年3月	有	無
	7	下依知2-31-22	48.02	24.84	23.18	昭和63年3月	木造2階 カラー鉄板葺	下依知2-31-22	コンクリート	1	12	昭和63年3月	有	有
	8	金田685-3	50.51	28.98	21.53	昭和62年3月	木造平屋 カラー鉄板葺	金田685-3	コンクリート	1	12	昭和62年3月	有	有
	9	山際805-4	100.80	45.00	55.80	平成12年2月	鉄骨造2階 カラー鉄板葺	山際805-4	コンクリート	1	12	平成12年1月	有	無
	10	下川入1366-3	66.24	33.12	33.12	平成4年3月	木造2階 カラー石綿スレート葺	下川入1366-3	コンクリート	1	12	平成4年3月	有	無
3	1	林3-8-52	92.75	34.43	58.32	平成2年2月	鉄骨造2階 カラー石綿コロニアル葺	林3-8-52	鋼 管	1	12	平成15年9月	有	無
	2	及川473-3	73.71	35.65	38.06	平成10年2月	鉄骨造2階 カラー鉄板葺	及川473-3	コンクリート	1	12	平成10年2月	有	有
	3	妻田西2-6-16	79.92	38.88	41.04	平成18年12月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	妻田西2-6-16	鋼 管	1	12	平成18年12月	有	無
	4	三田2727-2	75.60	37.80	37.80	平成21年12月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	三田2727-2	鋼 管	1	12	平成21年12月	有	無
	5	棚沢1593-6	75.75	34.97	40.78	平成13年2月	鉄骨造2階 カラー鉄板葺	棚沢1593-6	コンクリート	1	12	平成13年2月	有	有

器 具 置 場								ホ ー ス 乾 燥 塔						
分 団	部	所 在 地	延 (占有) 面積 (㎡)	器具置場 面積 (㎡)	待機室 面積 (㎡)	設置年月	構 造	所 在 地	構 造	脚数	高さ (m)	設置 年月	サイレン	防災無線
4	1	上荻野1325-2	52.92	26.46	26.46	平成3年3月	鉄骨造2階 石綿スレート葺	上荻野1325-2	コンクリート	1	12	平成3年3月	有	無
	2	上荻野1203-2	76.94	30.40	46.54	令和2年3月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	上荻野1203-2	鉄 骨	1	12	令和2年3月	有	無
	3	上荻野36-1	78.08	39.04	39.04	平成31年3月	軽量鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	上荻野36-1	コンクリート	1	12	平成31年3月	有	無
	4	中荻野743-7	94.57	48.03	46.54	平成2年3月	木造2階 カラー石綿スレート葺	中荻野743-7	コンクリート	1	12	平成2年3月	有	有
	5	下荻野773-2	72.78	34.90	37.88	平成8年12月	鉄骨造2階 石綿スレート葺	下荻野773-2	コンクリート	1	12	平成8年12月	有	無
5	1	飯山272-5	80.40	40.20	40.20	平成3年3月	木造2階 石綿スレート葺	飯山272-5	コンクリート	1	12	平成3年3月	有	無
	2	飯山1228-3	46.37	26.50	19.87	昭和62年3月	木造平屋 カラー鉄板葺	飯山1228-3	コンクリート	1	12	昭和62年3月	有	無
	3	飯山4586-5	44.30	25.96	18.34	昭和61年3月	木造平屋 カラー鉄板葺	飯山4586-5	コンクリート	1	12	昭和61年3月	有	有
	4	飯山5100-1	53.80	26.90	26.90	昭和62年8月	木造2階 カラー鉄板葺	飯山5100-1	鉄 骨	4	12	昭和44年1月	有	有
	5	飯山南3-9-17	79.50	34.78	44.72	平成2年1月	木造2階 石綿スレート葺	飯山3141-9	コンクリート	1	12	平成2年1月	有	無
	6	上古沢77-2	82.06	41.03	41.03	平成27年12月	軽量鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	上古沢77-2	コンクリート	1	12	平成11年2月	有	有
	7	下古沢328-1	45.95	23.18	22.77	平成元年3月	木造平屋 カラー鉄板葺	下古沢328-1	コンクリート	1	12	平成元年3月	有	有
6	1	七沢1274	79.92	38.88	41.04	平成20年12月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	七沢1274	鋼 管	1	12	平成20年12月	有	無
	2	七沢1523-7	82.06	41.03	41.03	平成29年3月	軽量鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	七沢1523-7	コンクリート	1	12	平成29年3月	有	無
	3	七沢199-8	76.33	26.08	50.25	平成元年2月	鉄骨一部木造2階 石綿スレート葺	七沢199-8	コンクリート	1	12	平成元年2月	有	無
	4	小野839-1外	83.72	41.86	41.86	平成9年2月	木造2階 亜鉛メッキ鋼葺	小野839-1	コンクリート	1	12	平成9年2月	有	無
	5	小野2161-1	53.82	28.98	24.84	昭和60年3月	木造2階 カラー鉄板葺	小野2161-1	コンクリート	1	12	昭和60年3月	有	有
	6	岡津古久878-11	79.70	39.85	39.85	平成27年1月	軽量鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	岡津古久878-11	鋼 管	1	12	平成27年1月	有	無

器 具 置 場								ホ ー ス 乾 燥 塔						
分 団	部	所 在 地	延 (占有) 面積 (㎡)	器具置場 面積 (㎡)	待機室 面積 (㎡)	設置年月	構 造	所 在 地	構 造	脚数	高さ (m)	設置 年月	サイレン	防災無線
7	1	戸室2-5-17	60.48	30.24	30.24	平成4年3月	鉄骨造2階 石綿スレート葺	戸室2-5-17	コンクリート	1	12	平成4年3月	有	無
	2	恩名3-4-25	89.84	44.92	44.92	令和4年2月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	恩名3-4-25	鉄 骨	1	12	令和4年2月	有	無
	3	温水西2-2-20	88.08	44.04	44.04	令和3年2月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	温水西2-2-20	鉄 骨	1	12	令和3年2月	有	無
	4	温水612	49.68	24.84	24.84	昭和63年3月	鉄骨造2階 複合施設	温水612	コンクリート	1	12	昭和63年3月	有	有
	5	愛名36-8	46.37	23.18	23.19	昭和63年12月	木造平屋 カラー鉄板葺	愛名36-8	コンクリート	1	12	昭和63年12月	有	無
	6	長谷673-5	77.26	38.54	38.72	令和4年1月	鉄筋コンクリート造2階 複合施設	南 毛 利 分 署 兼 用						
	7	船子1250-2	46.37	23.18	23.19	昭和63年12月	木造平屋 カラー鉄板葺	船子1250-2	コンクリート	1	12	昭和63年12月	有	無
	8	愛甲西1-3-5	75.92	34.39	41.53	平成11年1月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	愛甲西1-3-5	コンクリート	1	12	平成11年1月	有	有
	9	愛甲東2-8-2	46.74	23.19	23.55	昭和62年9月	木造2階 カラー鉄板葺	愛甲東2-8-2	鉄 骨	4	12	昭和50年3月	有	有
8	1	岡田4-19-16	53.82	28.98	24.84	昭和59年10月	木造2階 カラー鉄板葺	岡田4-19-16	鉄 骨	4	16	昭和41年2月	有	有
	2	酒井2090-8	80.38	39.95	40.43	平成5年3月	木造2階 ガルバリウム鋼板葺	酒井2090-8	コンクリート	1	12	平成5年3月	有	無
	3	酒井940-1	75.67	37.17	38.50	平成14年2月	鉄骨造2階 カラー鉄板葺	酒井940-1	コンクリート	1	12	平成14年2月	有	無
	4	戸田1202-3	62.10	33.12	28.98	平成6年3月	木造平屋 亜鉛メッキ葺	戸田1202-3	コンクリート	1	12	平成6年3月	有	有
	5	長沼160-2	46.37	23.19	23.18	昭和62年3月	木造平屋 カラー鉄板葺	長沼160-2	コンクリート	1	12	昭和63年3月	有	有
	6	下津古久716-3	89.84	44.92	44.92	令和6年3月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	下津古久716-3	コンクリート	1	12	令和6年3月	有	有
	7	上落合555-2	81.14	39.89	41.25	平成17年12月	鉄骨造2階 ガルバリウム鋼板葺	上落合555-2	鋼 管	1	12	平成17年12月	有	無

17 消防団車両保有状況

(令和6年4月1日現在)

分 団	部	車 両 番 号	型 式	登 録 年 月	ポ ン プ 性 能		
					社 名	馬 力	級 別
本団		相模800せ1816	スバル DBA-SJ5	平成29年12月	—	—	—
1	1	相模800す5003	ニッサン CBF-SQ2F24	平成21年2月	トーハツ	22	B 3
	2	相模800す5004	ニッサン CBF-SQ2F24	平成21年2月	トーハツ	22	B 3
	3	相模830せ103	ニッサン CBF-SQ2F24	令和2年1月	トーハツ	22	B 3
2	1	相模800す866	ニッサン TC-SH4F23	平成17年3月	トーハツ	30	B 2
	2	相模830す202	ニッサン CBF-SQ2F24	平成31年2月	トーハツ	22	B 3
	3	相模830す203	ニッサン CBF-SQ2F24	平成29年2月	トーハツ	22	B 3
	4	相模800す4185	ニッサン CBF-SQ2F24	平成20年2月	トーハツ	22	B 3
	5	相模830さ205	ニッサン CBF-SQ2F24	令和3年2月	トーハツ	22	B 3
	6	相模830す206	トヨタ 3BF-TRY230	令和6年2月	トーハツ	22	B 2
	7	相模830す207	ニッサン CBF-SQ2F24	平成31年2月	トーハツ	22	B 3
	8	相模830そ208	ニッサン CBF-SQ2F24	令和2年1月	トーハツ	22	B 3
	9	相模800す1890	ニッサン TC-SH4F23	平成17年12月	トーハツ	30	B 3
	10	相模800す1891	ニッサン TC-SH4F23	平成17年12月	トーハツ	30	B 2
3	1	相模800す867	ニッサン TC-SH4F23	平成17年3月	トーハツ	30	B 2
	2	相模800す5755	ニッサン CBF-SQ2F24	平成22年2月	トーハツ	22	B 3
	3	相模800す5761	ニッサン PDG-SZ5F24	平成22年2月	マキタ沼津	30	B 2
	4	相模830す304	ニッサン CBF-SQ2F24	令和3年2月	トーハツ	22	B 3
	5	相模800す4186	ニッサン CBF-SQ2F24	平成20年2月	トーハツ	22	B 3
4	1	相模830さ401	ニッサン CBF-SQ2F24	平成29年2月	トーハツ	22	B 3
	2	相模830そ402	トヨタ 3BF-TRY230	令和5年2月	トーハツ	22	B 3
	3	相模830さ403	ニッサン CBF-SQ2F24	令和3年2月	トーハツ	22	B 3
	4	相模830せ404	ニッサン CBF-SQ2F24	平成31年2月	トーハツ	22	B 3
	5	相模830さ405	ニッサン CBF-SQ2F24	令和2年1月	トーハツ	22	B 3

分 団	部	車 両 番 号	型 式	登 録 年 月	ポ ン プ 性 能		
					社 名	馬 力	級 別
5	1	相模800す1892	ニッサン TC-SH4F23	平成17年12月	トーハツ	30	B 2
	2	相模830す502	トヨタ 3BF-TRY230	令和5年2月	トーハツ	22	B 3
	3	相模830す503	ニッサン CBF-SQ2F24	令和2年1月	トーハツ	22	B 3
	4	相模800す7818	ニッサン CBF-SQ2F24	平成25年3月	トーハツ	22	B 3
	5	相模800す605	ニッサン TC-SH4F23	平成16年12月	トーハツ	30	B 3
	6	相模830さ506	トヨタ 3BF-TRY230	令和4年10月	トーハツ	22	B 3
	7	相模800す5756	ニッサン CBF-SQ2F24	平成22年2月	トーハツ	22	B 3
6	1	相模800す5005	ニッサン CBF-SQ2F24	平成21年2月	トーハツ	22	B 3
	2	相模800す4187	ニッサン CBF-SQ2F24	平成20年2月	トーハツ	22	B 3
	3	相模830す603	ニッサン CBF-SQ2F24	平成30年2月	トーハツ	22	B 3
	4	相模830さ604	ニッサン CBF-SQ2F24	平成30年2月	トーハツ	22	B 3
	5	相模830す605	ニッサン CBF-SQ2F24	平成31年2月	トーハツ	22	B 3
	6	相模800す604	ニッサン TC-SH4F23	平成16年12月	トーハツ	30	B 3
7	1	相模800す1893	ニッサン TC-SH4F23	平成17年12月	トーハツ	30	B 3
	2	相模800す5757	ニッサン CBF-SQ2F24	平成22年2月	トーハツ	22	B 3
	3	相模800す5006	ニッサン CBF-SQ2F24	平成21年2月	トーハツ	22	B 3
	4	相模800す9397	ニッサン GBF-SQ2F24	平成27年3月	トーハツ	22	B 3
	5	相模800す3118	ニッサン TC-SH4F23	平成18年12月	トーハツ	30	B 3
	6	相模830せ706	トヨタ 3BF-TRY230	令和4年10月	トーハツ	22	B 3
	7	相模830せ707	トヨタ 3BF-TRY230	令和6年2月	トーハツ	22	B 2
	8	相模830さ708	ニッサン GBF-SQ2F24	令和3年2月	トーハツ	22	B 3
	9	相模830さ709	トヨタ 3BF-TRY230	令和5年2月	トーハツ	22	B 3

分団	部	車 両 番 号	型 式	登 録 年 月	ポ ン プ 性 能		
					社 名	馬 力	級 別
8	1	相模800す4188	ニッサン CBF-SQ2F24	平成20年2月	トーハツ	22	B 3
	2	相模830さ802	トヨタ 3BF-TRY230	令和4年10月	トーハツ	22	B 3
	3	相模800す9361	いすゞ TKG-NHS85AN	平成27年2月	トーハツ	22	B 2
	4	相模800す3119	ニッサン TC-SH4F23	平成18年12月	トーハツ	30	B 2
	5	相模800す1894	ニッサン TC-SH4F23	平成17年12月	トーハツ	30	B 3
	6	相模800す5758	ニッサン CBF-SQ2F24	平成22年2月	トーハツ	22	B 3
	7	相模830す807	トヨタ 3BF-TRY230	令和6年2月	トーハツ	22	B 2

小型動力ポンプ付積載車 5 2 台

18 水防・資材倉庫施設一覧表

(令和6年4月1日現在)

名 称		所 在 地	延(占有) 面積(m ²)	設 置 年 月	構 造
水 防 倉 庫	厚木水防倉庫	旭町2丁目4番18号	29.60	平成29年3月	鉄筋コンクリート
	依知水防倉庫	中依知661番6	26.50	平成2年3月	木造カラー石綿葺
	林水防倉庫	林3丁目1567番先	33.12	昭和54年4月	木造亜鉛葺
	睦合水防倉庫	三田2727番地2	29.40	平成21年12月	鉄骨造ガルバリウム鋼板葺
	荻野水防倉庫	上荻野1203番地2	41.10	令和2年3月	鉄骨造
	小鮎水防倉庫	飯山1433番地1	33.12	昭和57年3月	木造亜鉛葺
	玉川水防倉庫	小野2161番地	39.74	昭和60年3月	木造カラー鉄板瓦棒葺
	南毛利水防倉庫	温水612番地	31.05	昭和63年3月	鉄骨造
	相川水防倉庫	戸田366番地3	45.54	昭和63年1月	鉄骨造
資 材 倉 庫	関口資材倉庫	関口31番地	100.00	平成16年3月	鉄骨造カラー鉄板
	毛利台資材倉庫	毛利台1丁目28番8号	31.10	昭和62年12月	鉄骨造炭酸マグネシウム板

厚木市鳶職組合 古式消防保存会

1 古式消防保存会のあゆみ

厚木市鳶職組合によって創設された古式消防保存会は、惜しまれる古式消防のしきたりを後継者に引継ぎ、消防昔日の姿を保存することを目的に、昭和45年5月9日に会員59人を以て結成された。

現在は、年頭における消防出初め式をはじめ、各種福祉施設等に出向き、木遣り歌、はしご乗りの勇姿を披露、大勢の方々から大きな期待が寄せられている。

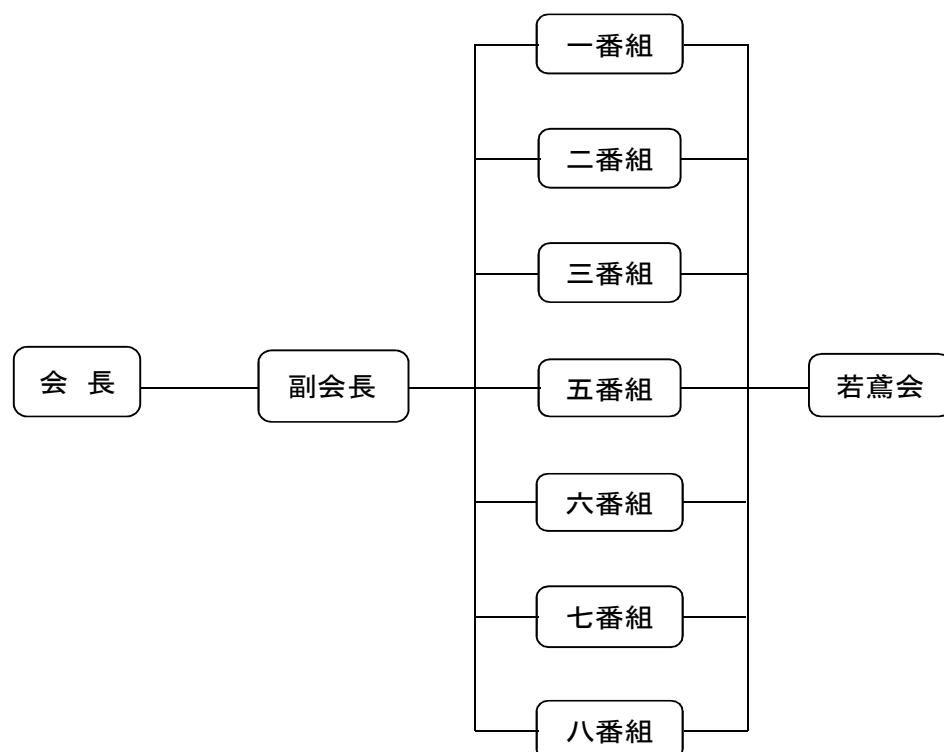
古式消防保存会歴代会長

就任日	会 長 名
昭和45. 5. 9	初代会長 飯島 正治 氏
昭和49. 3. 15	2代目会長 石井 倉造 氏
昭和53. 4. 1	3代目会長 桐生 高雄 氏
平成元. 4. 1	4代目会長 井上 忠雄 氏
平成3. 4. 1	5代目会長 小池 高利 氏
平成5. 4. 1	6代目会長 加藤 邑夫 氏
平成7. 4. 1	7代目会長 小池 高利 氏
平成13. 4. 1	8代目会長 中村 直二 氏
平成17. 4. 1	9代目会長 栗原 幸男 氏
平成25. 4. 1	10代目会長 森屋 知之 氏



※厚木市鳶職組合は、昭和39年に初代組合長である内田石松氏と組合員19人で結成されその後、2代目組合長として関野保治氏（昭和41年就任）、3代目組合長として森屋種治氏（昭和43年就任）が組織の拡大に尽力を注ぎ、4代目組合長として飯島正治氏（昭和45年就任）が就任した際に、古式消防保存会が創設された。

2 組織図





令和 6 年版

消 防 年 報

令和 6 年 7 月

編集発行 厚木市消防本部 消防総務課 消防総務係
神奈川県厚木市寿町 3 丁目 4 番 10 号
電話 046-223-9366(直通)
FAX 046-223-8251
<http://www.city.atsugi.kanagawa.jp>

表紙の写真は、化学消防ポンプ自動車（北化学 1 号車）
（令和 5 年 10 月運用開始）

守りたい 未来があるから 火の用心

(2024年度 全国統一防火標語)

